



<http://www.fukushima.co.jp>



この期末報告書は、環境に配慮し、再生紙と大豆インキを使用しています。

会社の概要

商号	福島工業株式会社
本社	〒555-0012 大阪府大阪市西淀川区御幣島3-16-11
設立	昭和26年12月8日
資本金	27億6千万円
従業員数	連結:1,046名 単体:852名(準社員除く)
ネットワーク <small>(平成22年6月29日現在)</small>	事業所 東京、大阪、福岡 支店 札幌、東北(仙台)、信越(新潟)、関東(さいたま)、横浜、西関東(立川)、名古屋、北陸(富山)、京都、神戸、岡山、広島、四国(高松)、長崎、南九州(熊本)、沖縄 営業所 旭川、青森、盛岡、秋田、郡山、山形、長野、松本、宇都宮、高崎、水戸、千葉、小田原、甲府、静岡、沼津、浜松、金沢、福井、岐阜、三重、豊橋、滋賀、奈良、和歌山、難波、南大阪、北大阪、姫路、北近畿、鳥取、松江、福山、山口、徳島、松山、高知、北九州、大分、佐賀、佐世保、宮崎、鹿児島、石垣 工場 滋賀、岡山 グループ会社 国内 高橋工業株式会社、フクシマトレーディング 海外 香港、台湾、シンガポール、韓国、上海、北京合弁工場
役員 <small>(平成22年6月29日現在)</small>	代表取締役社長 福島 裕 専務取締役 福島 亮 常務取締役 片山 充 取締役 長尾健二 取締役 水谷浩三 監査役 田中芳樹 監査役 竹内博史 監査役 中井 斎

株式のご案内

決算日	3月31日
定株主総会	毎年6月下旬に開催
配当金受領株主確定日	3月31日
上場取引所	東京証券取引所 市場第一部 大阪証券取引所 市場第一部
公告掲載方法	当社の公告はホームページ http://www.fukushima.co.jp/ir/advertise.html に掲載いたします。
株主事務取扱所	●株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 ●株主名簿管理人事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
【郵便物送付先】	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
【電話照会先】	0120-176-417
【インターネット ホームページURL】	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html

福島工業株式会社

証券コード:6420



株主・投資家の皆さまへ

第59期 期末報告書

平成21年4月1日～平成22年3月31日



フレッシュ・バリューをあなたとともに

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
当社第59期の事業活動の概況をご報告申し上げます。
株主の皆様には、引き続きご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

➡ 企業理念

環境・安全・安心をテーマに 「幸せ創造企業」 を目指します。

- 第1項 生活者の幸せ**
わたしたちは、環境・安全・安心をテーマに、お客様と協働し、生活者の「幸せ」に寄与することを基本使命とします。
- 第2項 お客様の幸せ**
わたしたちは、独自の技術とシステムにより、フードビジネスに新しい価値を創造し、お客様の「幸せ」に貢献することを基本使命とします。
- 第3項 社員の幸せ**
わたしたちは、自己責任能力を高め、自身と社業の成長を通じて、物心両面の「幸せ」を追求することを基本使命とします。
- 第4項 株主・お取引先の幸せ**
わたしたちは、将来への目標を共有し、常に業績向上に努め株主やお取引先に「幸せ」を提供することを基本使命とします。

➡ 社長メッセージ

高い志を持って、社会に貢献できる企業を目指して。

■ グループ会社と東アジアのビジネスが順調に

— 59期を振り返り、成果と課題をお聞かせください。

第1、第2四半期は世界的な不況の煽りを受けましたが、第3四半期を迎えたころから徐々に回復の兆しが見えてきました。

これは昨年下期に連結子会社となったトンネルフリーザーの高橋工業が「食の安全・安心」や「食品の国内加工」などを背景にして、比較的顕著な伸びを見せたことと、また、近年、当社が注力している中国を中心とした東アジア地域でのビジネスが順調に成長しているなどの要因があると考えられます。

国内市場においては環境対策は外せません。お客様の店舗や施設の省エネを実現させる製品・システムの販売を拡大していくことが課題となります。

— 省エネはお客様のニーズだというお考えでしょうか？

お客様のニーズというよりも当社のミッションと言えるでしょう。

社会全体のCO₂削減は絶対事項であるにも関わらず、商業部門におけるCO₂排出量は1990年比で40%も増加しています。だからこそ、エネルギー消費量が大きい冷凍冷蔵設備を事業とする当社の役割は非常に大きいと考えます。

昨年9月に業界初のインバーター搭載のアイラン

ドショーケースを発売し、年間消費電力を、従来製品に比べて、最大約50%削減しました。これからも当社は省エネを踏まえた製品開発やお客様への提案を実践していきます。

■ 国内外で『三方良し』を目指す

— 省エネ商品を広めていくために、どのような視点をお持ちですか？

近江商人の『三方良し』という言葉があります。提案する私たちにとっても、買っていただくお客様にとっても、世間にとっても良いモノを作る。つまり、お客様のニーズだけに応えていくのではなく、それらを突き抜けて、社会的な視点に立った企業活動をしていくことが不可欠だということです。

これは国内での活動だけに留まらず、海外での展開でも同じことが言えます。

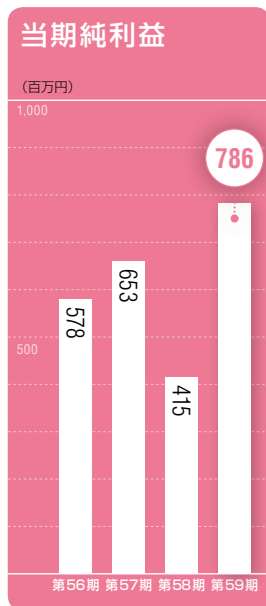
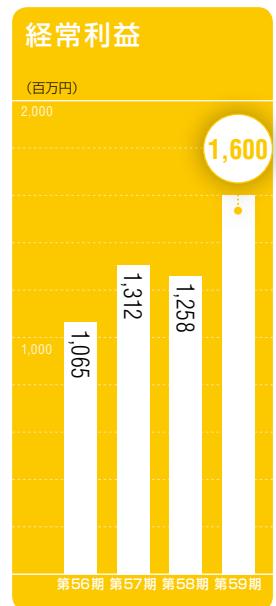
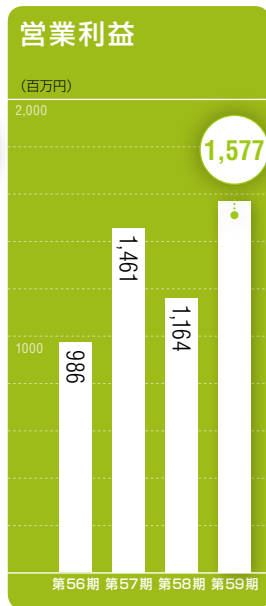
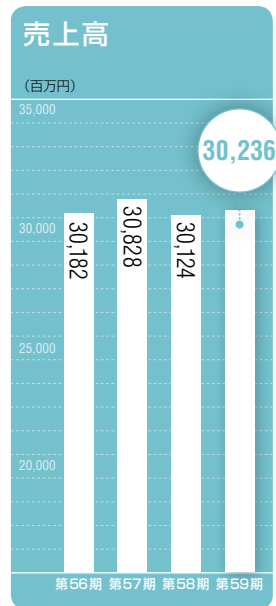
単に日本の製品を売り込むのではなく、その国の食文化を理解し、その国の生活者に必要なパートナーとなるべく、技術と知識を有し、信頼関係を構築できる人材を輩出していきたいと考えております。

私たちは高い志を持って、社会に貢献してまいります。

代表取締役社長 **福島 裕**



➡ 連結業績ハイライト



➡ 営業概要

厳しい現状に置かれつつも、
明るい兆しが見えつつある

当社の取引先である流通産業・外食産業では、長引く景気低迷による低価格志向、節約志向により、厳しい状況が続きました。

製品販売においては、新型ショーケース「Send-you」シリーズ、業界初のインバーター冷凍機内蔵型ショーケースを発売し、「アクシア・エコ」システムと共に省エネ提案を行ってきました。また、新規市場への提案やラインアップの拡充により、ドゥコンディショナーやメディカル機器、製氷機の売上が堅調に伸びました。今期より連結子会社となった高橋工業株式会社のトンネルフリーザーの売上を加えましたが、GMSやスーパー、大手外食チェーン店などの新規出店が控えられ、業務用冷蔵庫などの主力製品の売上が減少し、冷凍冷蔵ショーケース、冷凍冷蔵庫部門とも売上高は前年に比べ減少しました。

工事・サービス部門では、食品物流や食品メーカーなどの新たな食のマーケットでの大型冷蔵設備の売上が増加しました。また、定期メンテナンスにより製品寿命を延ばし、効率的な運転を維持する新しいサービスメニュー提案を行いました。これにより、高橋工業株式会社の工事・サービス売上を加え、売上高は前年に比べ増加しました。

その結果、連結売上高は302億3千6百万円（前年同期比0.4%増）、営業利益は15億7千7百万円（前年同期比35.5%増）となりました。



ドゥコンディショナー



低温インキュベーター



製氷機

トピックス

2009/4 ~ 2010/3

TOPICS 01 新しいステージへ
フクシマの冷凍・冷蔵ショーケース

冷 やすこと、快適空間づくりにこだわり続けた専門メーカーとして、フクシマはショーケースに求められる食の鮮と美を守りながら、かつてない省エネ効果を生み出す新製品の開発を実現しました。冷凍・冷蔵ショーケースは、もうひとクラス上の新しいステージへ。

従来のショーケース「アクロスター」シリーズをフルモデルチェンジし、吹き出し位置の変更や冷却器・ダクト構造の新設計により、従来比14%~30%の大幅な省エネと高鮮度管理を実現した新型ショーケース「Send-you」（センド・ユー）シリーズを発売いたしました。

Send-you



POINT
かつてない省エネ効果を実現。店舗の快適空間づくりに一役。食が持つ「鮮と美」を安心してお届け。

TOPICS 02 展示会に出展、新製品をPR

今 期も当社は、スーパーマーケットトレードショーおよび厨房設備機器展に出展しました。

スーパーマーケットトレードショーでは、「がんばれ食品スーパー!!」をテーマとし、新型ショーケース「Send-youシリーズ」や「空調最適制御」を組み合わせた店舗全体の省エネ提案、そして、誰でも簡単に本格的調理ができるeクッキングシステムの提案を行いました。

厨房設備機器展では、「あらゆるフードビジネスへのソリューションを提供します」をテーマとし、プラスチックラレーやパティスリー&ベーカリー機器、スリム型パーティカル製氷機などの新型製品や食品検査機器の提案、冷却調理実演・低温スチーム調理実演を行いました。

いずれの展示会も大盛況で、当社の勢いをPRしました。

2/8~10
スーパーマーケット
トレードショー



▶省エネと店舗トータルエネルギー管理システムを積極的に提案。

2/23~26
厨房設備機器展



◀東京ビッグサイトで開催された『厨房設備機器展』。調理実演を行い、来場者に製品をアピール。

特集 省エネと高鮮度 へのチャレンジ

Special Feature

業界のトレンドは「省エネ」と「高鮮度」。今回はショーケースの「省エネ」についての取り組みをご紹介します。

Challenge 01

「省エネ」は最大にして、最高のミッション

最大省エネ率50%を実現。
環境にやさしい製品をお届けします。

当社は2007年度より、次世代ショーケース冷却システムAxia-Ecoを発売し、環境に配慮した省エネ+高鮮度管理をお客様に提案してきました。

さらにお客様の環境に配慮した店舗作りに対するご要望に応えるために、業界初の冷凍機内蔵型インバーターアイランドショーケースを開発いたしました。

冷凍機内蔵型インバーターアイランドショーケースは、インバーター制御冷凍機と冷媒制御技術の組み合わせにより、当社従来機種に比べ50%の省エネ率を達成し、かつ商品に与える温度変化を軽減することで、省エネと鮮度管理の両立を実現できる製品となっています。

そして単相100V仕様のバリエーションを拡充し、冷凍/冷蔵切替ワイドレンジタイプ、冷蔵専用タイプなどあわせて60機種をそろえ、冷凍機内蔵型アイランドショーケースは全てインバーター制御モデルとなりました。

「インバーターショーケースのフクシマ」として今後も「省エネ」と「高鮮度」を実践しお客様に新しい価値をお届けする製品やシステムの開発に注力してまいります。



冷凍機内蔵型
インバーターアイランドショーケース

電気料金が大幅ダウン。
環境にもやさしい製品
を実現しました。



滋賀工場
滋賀開発部
有馬 雄二

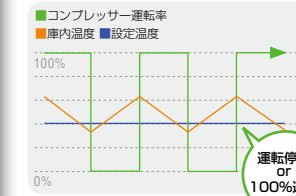
POINT the 省エネ①

インバーター制御で鮮度・品質をキープ

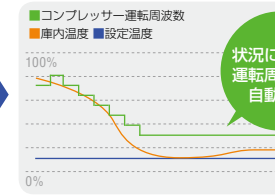
インバーター制御により、高効率で運転することで、中の商品の鮮度・品質をキープできます。

制御機能比較

今まで ON-OFF制御



これから インバーターゾーン制御



インバーター搭載で、
効率的にエネルギー
を使用します。



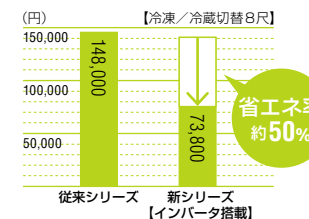
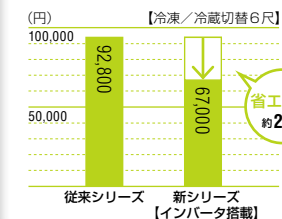
滋賀工場
滋賀開発部
主任
田中 孝弘

POINT the 省エネ②

最大50%の省エネを実現!

当社の従来機種に比べ、年間電気料金を最大約50%削減する、圧倒的な省エネ性能を実現しました。

年間電気料金比較



座談会 営業部門が語る

「省エネ」は“強み”を生かし、一丸で取り組む。

お客様は「省エネ」をどのようにとらえているのでしょうか。ここではお客様と密接に関わっているメンバーが集まり、「省エネ」に対するお客様の意識変化や、「省エネ」を実現する上での当社の“強み”について話し合った。

お客様の省エネに対する意識は大変高まっている。

福島 環境対策とコスト削減という二つの側面から、多くのお客様が省エネに取り組まれていますね。そこで、営業としてはハードとソフト両面での省エネをPRしています。なかでも当社の従来品や他社製品と比較しても優位性のある製品『Send-youシリーズ』は今、一番注力している製品です。

佐藤 省エネというニーズは最近に始まったことではなく、かなり前からありましたよね。それが近年の環境に対する意識変化に伴ってクローズアップされ始めた気がします。当社でも「省エネ」はお客様のニーズという枠を越えた、我々のミッションだという捉え方をしています。

鳴田 私の担当する部門では、建物全体の省エネという観点が必要です。その中でもお客様からのご要望が多いのは、効率化と省力化です。作業動線やオペレーションを徹底的に効率化することで、あらゆるムダをはばき、省

省エネだけでなく、
安全性を重視。

エネとコスト削減を実現させるような提案が求められています。

小島 FMSでは医療・理化学の分野に特化し、大学の研究室や病院をターゲットにしています。従来、省エネという意識はあまりなかったように思えるのですが、国立大学の独立行政法人化など、社会の変化を受け、その辺りの意識も変わってきています。

福島 改正省エネ法の影響も大きいでしょうね。それを見越して、お客様はさまざまな取り組みをされてきました。当社や建築関係、照明関係などの取引先を集めて、省エネに関する定例会議を開いているお客様もいらっしゃるほどです。もちろん、コストという面でも分野を問わずシビアに見られるようになっていきます。

鳴田 私もそう感じます。以前はお客様はコストのなかで「冷やす」という部分にどれだけコストがかかっているかをあまり意識されていなかった気がします。当社がコスト削減案を提案させていただくという件数は増えていますね。

佐藤 私たちのお客様の多くは食品を扱われる企業様です。省エネ性を高めるだけで

これまでの経験を
活かした提案を。



エンジニアリング
事業部 次長
鳴田 友和

他社にない
「仕組み」を前面に。

なく「安全性」も図っていかねばなりませんので、当社独自の通信システムを用いるなど、さらなる安全性向上を図っています。

製造・販売・メンテの流れを“強み”として。

小島 医療・理化学分野では、高いシェアを持った企業やノンフロン冷媒の製品を強みとした企業など、さまざまな競合があります。当社はこの分野では後発メーカーではありますが、これまで培ってきたノウハウを駆使し、お客様に貢献していきたいと考えています。

鳴田 大型の冷凍冷蔵設備を扱う私の部門には競合と呼ばれる企業は多種多様です。ですので、お客様への提案も概念がまったく異なることが多くあります。そこで、私たちの強みと言われるメンテナンスをいかにして生かしていくか。性能の良い製品をより効率的に稼働させていくには、やはりメンテナンスが必要ですからね。また、システムを絡めることで、他社にはない「仕組み」が構築しつつあります。ここを全面的に押し出していきたいところですね。

佐藤 製造、販売、サービスが一連の流れにあるという部分

は本当に強みといえますね。その流れの中で省エネにも取り組んでいけるので、もっともっと深めていくべきでしょう。

小島 担当する分野のなかには、小回りが効かず対応が遅い企業も多いとよく耳にします。当社はこれまでの経験を生かし、ハードとソフトを基軸とした総合力で他社との差別化を図っていきます。

福島 そうですね。ショーケースの省エネシステム『Axia-Eco』や既存店への省エネ対策など、当社は他社に絶対負けない技術を多く有しています。これらを営業だけでなく、技術・製造などの部門とともにPRしていき

ながら、お客様と一緒に取り組んでいくことが重要だと思っています。

お客様と一緒に
取り組むことが重要です。



大阪営業一部
部長
福島 豪



➡ 連結財務諸表

記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度末 (平成21年3月31日現在)	当連結会計年度末 (平成22年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	17,639,692	20,352,774
固定資産	10,104,775	10,823,263
有形固定資産	7,143,051	7,370,032
無形固定資産	132,293	110,468
投資その他の資産	2,829,430	3,342,762
資産合計	27,744,467	31,176,038

負債の部

流動負債	8,918,132	10,252,857
固定負債	636,789	1,947,275
負債合計	9,554,921	12,200,133

純資産の部

株主資本	18,283,341	18,871,988
資本金	2,760,192	2,760,192
資本剰余金	2,886,073	2,886,073
利益剰余金	12,659,382	13,248,146
自己株式	△22,306	△22,424
評価・換算差額等	△196,529	7,078
その他有価証券 評価差額金	△21,343	174,324
為替換算 調整勘定	△175,186	△167,245
少数株主持分	102,733	96,838
純資産合計	18,189,545	18,975,905
負債純資産 合計	27,744,467	31,176,038

連結損益計算書

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)
売上高	30,124,329	30,236,096
売上原価	22,948,306	22,692,736
売上総利益	7,176,022	7,543,359
販売費及び 一般管理費	6,011,746	5,966,183
営業利益	1,164,275	1,577,176
営業外収益	198,045	180,200
営業外費用	103,465	157,027
経常利益	1,258,856	1,600,348
特別利益	—	32,188
特別損失	393,835	135,201
税金等調整前 当期純利益	865,020	1,497,335
法人税、住民税 及び事業税	443,207	797,808
法人税等調整額	74,099	△79,519
少数株主損失	△67,820	△7,677
当期純利益	415,534	786,724

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成21年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成22年3月31日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	738,692	2,427,341
投資活動による キャッシュ・フロー	△724,265	△585,837
財務活動による キャッシュ・フロー	△307,789	191,267
現金及び 現金同等物に係る換算差額	△96,177	△22,691
現金及び 現金同等物の増減額	△389,539	2,010,080
現金及び 現金同等物の期首残高	7,724,594	7,335,055
現金及び 現金同等物の期末残高	7,335,055	9,345,135

売上高

食品物流や食品メーカーなどの新たな食のマーケットの開拓による大型冷蔵庫の売上増加や、高橋工業株式会社の工事・サービス売上増加により、302億3千6百万円（前年同期比0.4%増）となりました。

経常利益

製造・工事部門での原価低減活動や全社での経費削減活動、さらに高橋工業株式会社を加えた連結子会社の利益の増加により、経常利益は16億円（前年同期比27.1%増）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における資金は、税金等調整前当期純利益を14億9千7百万円を計上したことにより、前連結会計年度末に比べ20億1千万円増加し、93億4千5百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、24億2千7百万円（前年同期比16億8千8百万円増）となりました。これは主に税金等調整前当期純利益の計上によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、5億8千5百万円（前年同期比1億3千8百万円減）となりました。これは主に福岡事業所建物および各工場の生産設備等有形固定資産の取得によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果得られた資金は、1億9千1百万円（前連結会計年度は3億7百万円の使用）となりました。これは主に金融機関からの借入によるものであります。

➡ 株式関連情報

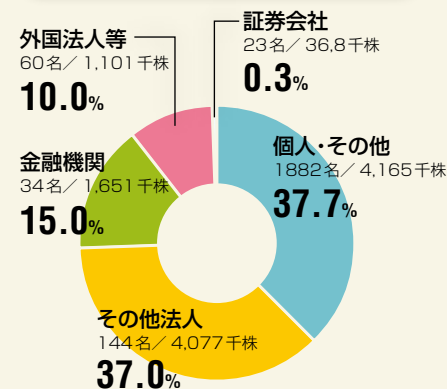
株式数及び株主数

発行可能株式の総数…………… 31,842,500株

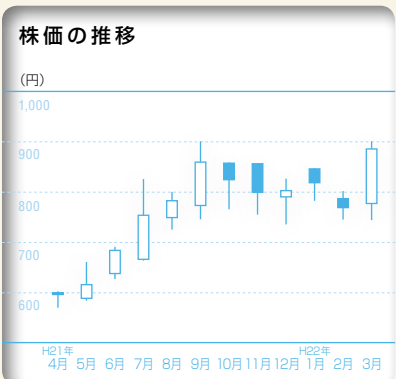
発行済株式の総数…………… 11,033,080株
(自己株式35,463株を含む)

株 主 数…………… 2,143名

所有者別株式分布状況



株価チャート



大株主(上位10名)

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
福島機器販売株式会社	2,761,000	25.1
福島工業社員持株会	961,478	8.7
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社	828,600	7.5
福島 裕	545,400	5.0
ユービーエス エージー ロンドン アカウント アイビービー セグリゲイテッド クライアント アカウント	358,100	3.3
福島 亮	337,474	3.1
有限会社 ティー・シー・エス・ビー	275,300	2.5
ザバンク オブ ニューヨーク ノントリーティー ジャスデック アカウント	195,500	1.8
日本生命保険相互会社	186,312	1.7
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社	128,400	1.2

(注)持株比率は、自己株式(35,463株)を控除して計算しております。

